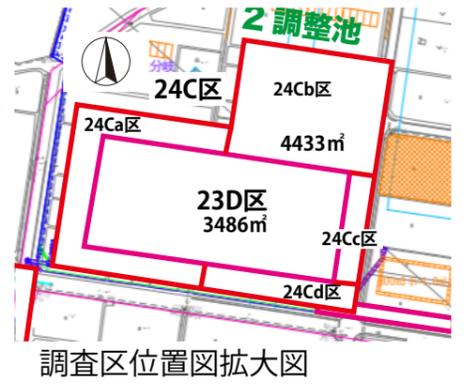




青山神明遺跡 発掘だより4号

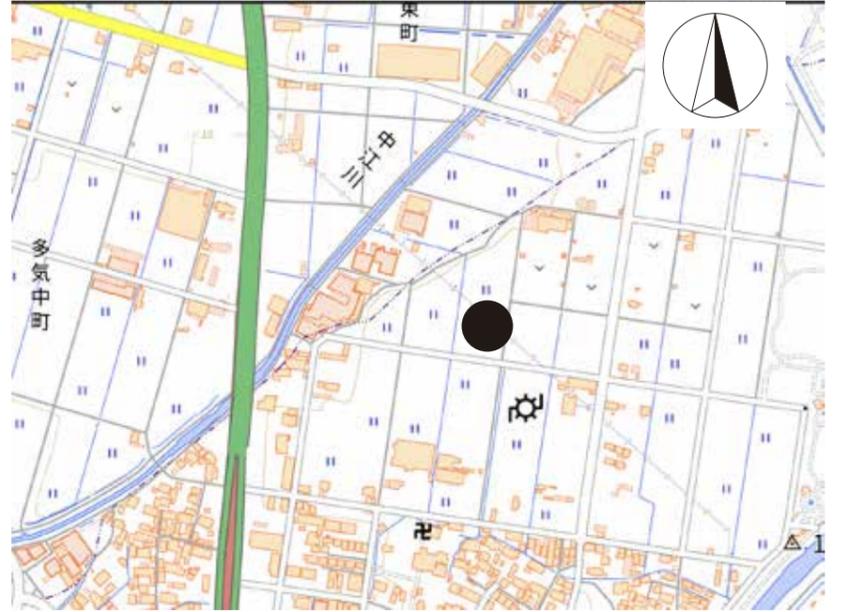
令和6年10月1日発行



調査区位置図拡大図

◆青山神明 24C区の調査◆

愛知県基幹的広域防災拠点整備事業(調整池)に伴う事業として令和6年4月～7月にかけて発掘調査を行いました。昨年度の調査(23D区)では古墳時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が見つかっています。今回は主に24Cb区について取り上げます。



青山神明遺跡 24C区 位置図(黒丸)

◆24C区 調査概要◆

主な遺構は、弥生時代の土坑1基、古墳時代の土坑墓が1基、土坑が2基、(古代)奈良時代の竪穴建物跡が7棟、古代～中世の掘立柱建物跡が2棟以上、井戸が9基、円形周溝遺構が4基、江戸時代の溝が2条あります。



青山神明遺跡 24Cb区 全景(北から撮影)

◆弥生時代中期(2300年前)の土坑と古墳時代後期(約1500年前)の土坑墓◆

今回見つかった弥生時代の土坑1は、土器を廃棄した土坑です。土坑から弥生土器の甕や石鏃が見つかりました。

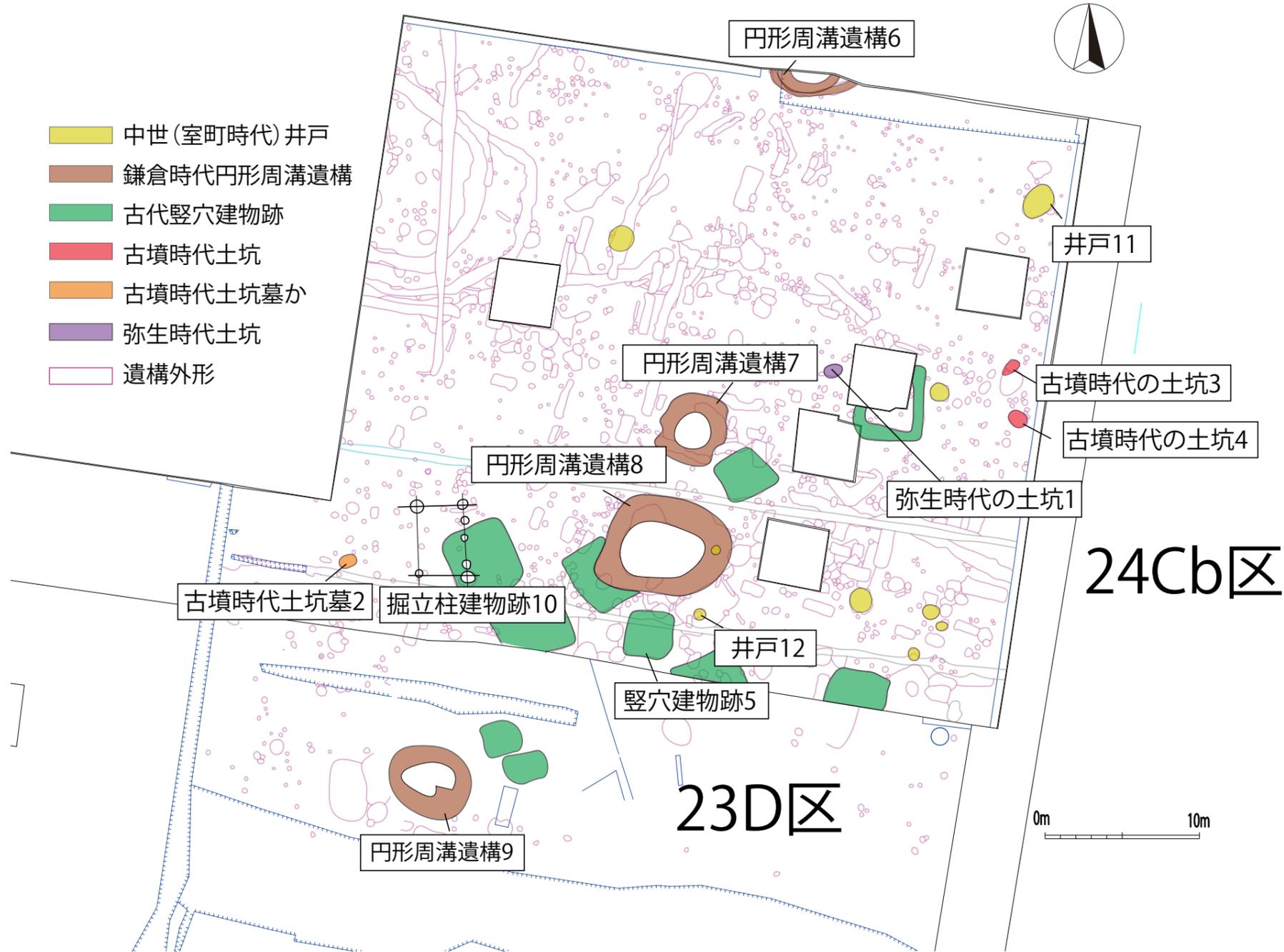
また、古墳時代の土坑墓2は、遺構の形は、平面は楕円形で大きさは径70cm、深さ30cmでした。土坑墓の南側の底から須恵器坏蓋や土師器台付甕が出土し石製白玉も見つかりました。遺構の埋土の中には焼土も確認できました。

編集



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
HP <http://www.maibun.com>
TEL : 0567-67-4163

青山神明遺跡 24C区調査成果



◆ 鎌倉・室町時代の遺構 ◆

今回見つかった遺構で注目されるのは、円形周溝遺構と井戸跡です。鎌倉時代(約800年前)は円形周溝遺構が4基確認されました。円形周溝遺構は、中心部分がマウンド状になっていて溝がそのまわりを巡っています。室町時代(約600年前)の井戸跡は9基あり、全て素掘りの井戸です。井戸11は、平面の大きさが2mと大きく、深さも1.8mほどあります。遺物は、やまぢゃわん 山茶碗や古瀬戸の花瓶などがあります。

◆ まとめ ◆

鎌倉時代の円形周溝遺構6～9は、南西から北東にかけて並んで築かれています。室町時代には井戸は広く分布し、円形周溝遺構付近には建物跡や柵などの跡と思われる柱穴は800基以上見つかっており、建物などが繰り返し建てられ集落が営まれたことがわかりました。

青山神明遺跡 24C区 発掘調査写真



弥生時代の土坑1（南から撮影）
約2300年前の甕です



弥生時代の土坑1 遺物取り上げ（南西から撮影）
1つ1つ道具（木べら）などを使って丁寧に取り上げます。



古墳時代の土坑墓2（南から撮影）
左：土師器台付甕 右：須恵器坏蓋



古墳時代 土坑3（西から撮影）
須恵器台付坏身の皿部分のみ出土



古代の竪穴建物跡5（南東から）
柱穴（焦茶色の丸い部分）も見つかりました



鎌倉時代 円形周溝遺構7（南東から）
墓ひいては塚の可能性がります。



掘立柱建物跡10（上から撮影）
南北約4.6m、東西約3mです。



室町時代 井戸12（南から撮影）
中央の黒色の部分が井戸として使われていたところです。